

## EMT981 再生系の再構成(6)

### 1. はじめに

前報(5)に引き続き、システムを替えて EMT981 の試聴を行います。

### 2. EMT981 の試聴方法

今回は、JBL4350A のシステムでの試聴を行います。

前報(5)までは、EMT981 からのバランス接続で TruPhase に入力していました。

EMT981(GMP-777 よりクロック入力)→BACU-1000→TruPhase→

BACU-1000→しなの音蔵 300B アンプ

今回、JBL4350A での試聴では、チャンネルデバイダーの F-15 にバランス入力がないので、バランス接続で TruPhase に入力することができず、アンバランス入力とします。

そのため、前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(\*)→CRV-555(\*\*)→DAC-1→TruPhase →AACU-7000→F-15

\* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

\*\* : EMT981 のクロックアウトよりクロック入力

再生する CD は下記とします。

ARCHIV POCA-2009/10

J.S.Bach ミサ曲口短調

カール・リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団

Deutsche Grammophon UCCG-9719/20

J.S.Bach Sonatas & Partitas

ヘンリク・シェリング

S&R AVCL-25005

J.S.Bach あなたがそばにいたら他

森麻季 (ソプラノ) 山岸茂人 (ピアノ)

GENUIN GEN 110209

J.S.Bach オーボエ協奏曲

ラモン・オルテガ・クエロ(オーボエ)

ペーター・ライナー指揮ポツダム室内アカデミー

### 3. EMT981 の試聴結果

ミサ曲口短調は、バロックヴァイオリンの伴奏でのアルトのアリアやフルートトラ

ヴェルソの伴奏でのソプラノとテノールの2重唱などはかなり満足度の高い再生ですが、合唱の入った大編成となると音の分離に難があります。

**Sonatas & Partitas** は、バッハのヴァイオリン曲の、しかも CD での再生は、JBL にとっては厳しいものがあるはずですが、クロック入力した **EMT981** と **DAC-1** の相性の良さで、浸透力がありながらも艶のあるシェリングの丁寧なボウイングが聴けます。

森麻季は、透明感のある森麻季のソプラノが伸び伸びと歌い、伴奏のピアノも実在感があります。

オーボエ協奏曲は、バロックオーボエが艶やかに奏でられ、アンサンブルの切れも通奏低音も明瞭です。

#### 4. まとめ

クロック入力した **EMT981** と **DAC-1** の相性の良さで、**JBL4350A** では苦手であったジャンルの CD 再生のパフォーマンスが向上しました。

以上